

式辞

如月、寒さが厳しく着物をさらに着重ねする、それが由来だとも言われていますが、2月はまさにその呼び名にふさわしく厳冬を思わせました。それが一転、一気に春を感じさせる陽気に満ちた弥生3月を迎えました。

本日は、学校評価委員の皆様、学園関係の皆様のご臨席を賜り、また保護者の皆様にご出席いただき、ここに、令和4年度卒業証書授与式を執り行うことができますことは、私ども教職員にとりまして、誠に大きな喜びでございます。

なお、ここ三年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の影響から、今年度の卒業式も、出席者を限定した形での開催となりましたことをご了解ください。

保護者の皆様、お子様のご卒業誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。3年前の初々しさから、心身ともに成長された姿に、感無量の思いをかみしめておられることと拝察いたします。これまでのご努力に対し深く敬意を表しますとともに、3年間本校の教育に多大なご支援とご協力を賜りましたことにつきまして改めて厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました普通科184名、生活デザイン科42名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。3年間にわたる努力が実を結び、ここに晴れて卒業の日を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます。

令和4年度が始まった始業式で、私は皆さんに次のような話をしました。【この2月に北京で冬季オリンピックが開催されましたが、私は、女子スピードスケートの小平奈緒さんの試合後のコメントがとても印象に残っています。彼女は前回の平昌（ピョンチャン）オリンピックで金メダルを獲得、連覇がかかっていましたが、それは叶いませんでした。『メダル獲得という目標についてはやり遂げられませんでした。ただ、私はやりきることができたと思っています』というものです。私には、潔く、そして素敵な言葉に響きました。

新年度が始まるにあたって、この「最善を尽くしてやりきる」、これをみなさんに伝えたいと思います。】そう話しました。思い出してもらえたでしょうか。きょうの良き日に贈る言葉は、やはり同じです。

皆さんは、高校入学と同時に休校措置という憂き目にあいました。「あれもしたい、こんなことにも挑戦したい」そんな前向きな気持ちにいきなり水を差された学年でした。5月の下旬に、ようやくクラスの半数ずつが隔日に登校し、対面授業とオンライン授業とを同時並行で行うことができるようになりました。本当の意味での高校生活が始まりました。そしてそこで目にしたのは、現実を受け止めて自分のできることに粛々と取り組んでいく姿勢でした。その姿を見たとき、皆さんなら、必ず自分の想いを成し遂げていくに違いない、そういう確信が生まれました。普段はあまり当てにならない私の直感ですが、この時の想いに間違いはありませんでした。

事実、なにより日々の学校生活を大切に考え、後輩たちを背中で牽引していく姿が私には印象的でした。そして、コロナ禍での制約の多さにめげず、創造性を発揮して学校行事、生徒会行事に取り組みました。その光景は、部活動でも随所に見受けられました。3年生になり、それぞれが自己実現を目指して、自分の想いと正面から向き合い、一心不乱に勉学に打ち込む姿も本当に

心を揺さぶられました。スタディラボの、あの怖いぐらいの緊迫した空気は、本校の「いつもの風景」になるに違いありません。

また、皆さんは人に対する優しさをそって示してくれる集団でもありました。今、世の中の至る所に「タイパ」という考え方があります。「タイムパフォーマンス」の略称で、「費やした時間に対する効果や時間的効率」を意味します。普段の生活でも、例えば、映画やドラマを倍速視聴したという人は、最近の統計によると3人に1人。20代に限ると、何と50%近い割合で倍速視聴をしているというのです。もちろん背景にはデータ流通量の爆発的拡大があると言われていきます。この発想は仕事にも遊びにも波及しているようです。

合理的に目の前の情報を処理する能力はもちろん必要です。ICT社会と言われる昨今、いかに無駄なくスマートに事を処理していくかはいろいろな場面での生産性を上げる上で重要な要素でもあるでしょう。しかし、皆さんにはこれから長い人生が待っています。そして今はそれと向き合うための助走期間だと思います。能率だけが必要なものではなく、じっくりと一見無駄にさえ思える事柄と対峙してみる姿勢こそ、私は必要なのではないかと思います。倍速で処理をすれば、その狭間に埋もれた大切なささやきを見逃してしまうかもしれません。活字を追う場合もそうでしょう。要点だけを、結論だけを拾い読みすることが多読の秘訣などと言われます。経験値を重ねて、時にそういう方法を選ぶことはあっても、今の皆さんは、じっくりと一つひとつの言葉と向き合ってほしいと思います。結論の背後にある本当の想いを見逃してほしくはないからです。

こんな話をしたのも、皆さんは表面的な合理性だけに左右されず、じっくりと周りの状況を観察し、考え、そして行動することができたからです。だから、優しさをもつこともできたのだと思うのです。どうか、その心根を大切にしてください。人は、社会という人の中で生きていくのです。人なくして、「私」という人間も定義はできません。人を想う優しさが、あなたの周りを明るくし、そして自分自身も幸せになれる、大切な心の持ち方だということを覚えていてください。

ここで、もう一度、保護者の皆様にご挨拶申し上げます。この卒業式に合わせて発行いただきましたPT通信の「保護者メッセージ」の一つひとつに目を通しました。そこには、お子様の成長を願うあふれんばかりの想いが感じられました。同時に、3年間という時の長さも実感されました。苦楽をともにしていただきましたことに改めて感謝申し上げます。

この4月には卒業生のだれもが「成人」という新たな、そして重い責任を背負うことにもなります。保護者の皆様の支えあつての新たな人生です。これからもよろしく願い申し上げます。

卒業生のみなさん、いよいよ次なる舞台があなた方の前にあります。私たち教職員は寂しさが募る卒業式ですが、皆さんは、きょうを区切りに、自分の十八年の軌跡を財産に、前だけを向いて進んでください。うまくいくかどうかなど、わかりません。そんなことより、今の自分を大切に、自分のペースで生きていってください。何より健康に留意され、「私らしく」進まれることを期待し、皆さんの前途に幸多かれと祈念し、『式辞』といたします。

令和五年三月一日

学校法人純美禮学園

滋賀短期大学附属高等学校 校長 小林 昌彦